

漁業協同組合JFしまねディスクロージャー

平成20年3月31日現在

経営概況

本県の平成19年度の漁業総生産高は、生産量が12万トン、生産金額は246億円と推定しており数量、金額とも増加となった。本県基幹漁業である旋網漁業を中心に紅ズワイガニ籠漁業及び沖合底曳網漁業は順調に推移し、本組合の経営に大きく貢献しました。

一方では、燃油価格の高騰が続き組合員の漁業経営を直撃すると共に本組合の燃油事業にも悪影響を及ぼすこととなりました。

信用事業においては、特別金利定期貯金、定期積金上乘せキャンペーンを実施し、JFマリンバンク利用顧客へ還元、また新規金融商品の発売等貯金獲得に努めると共に共済事業においても主力商品の「チョコー、くらし」のキャンペーンを展開して新規契約獲得に努力しました。

経済事業における販売事業では、各市場間の情報交換を密にする事で現場職員の意思の疎通を図り、常に魚価アップを念頭に置いた仕事の出来る職場作りを行ない、更に共通仲買人制の導入と徹底した債権管理に努めました。

購買事業においては、燃油の高騰が続く中、本所一括仕入体制により仕入先との粘り強い折衝を行ない、値上げ幅を極力抑えると共に安定供給に努めました。

また、魚函についても、原材料の値上がりによる値上げ要請が相次ぐ中、組合員への急激なコストアップを避けるため、値上げ時期を遅らせるなど仕入先との折衝に努め、漁家経営の安定に寄与出来るよう努めました。

合併3年目を迎えた本年度の各事業の推進に

は役職員が一丸となって積極的に取り組みながら、組織・事務体制の整備を進めつつ経営基盤の確立に鋭意努力してまいりました。

この間における各事業の推進にご協力戴きました組合員、関係機関に対しまして衷心より厚くお礼を申し上げます。

なお、「営業のご案内2008」につきましては、総合事業を実施する1県1漁協として二年度目に当たる事から各報告数値につきまして、平成18年度及び平成19年度の数値のみを記載致し開示しております。

